千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第44週（10/26-11/1）の発生は？

1　定点報告対象疾患（五類感染症）

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

報告のあった定点数	44週	43週	42週	41週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市 注意報	10/26-11/1 44週	10/19-10/25 43週	10/12-10/18 42週	10/5-10/11 41週	千葉県 10/19-10/25 43週
小児科	RSウイルス感染症		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.02
	咽頭結膜熱		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	9 0.07
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2 0.11	6 0.33	3 0.17	3 0.17	101 0.75
	感染性胃腸炎		22 1.22	28 1.56	27 1.50	29 1.61	178 1.33
	水痘		2 0.11	2 0.11	5 0.28	0 0.00	32 0.24
	手足口病		0 0.00	1 0.06	0 0.00	1 0.06	6 0.04
	伝染性紅斑		1 0.06	1 0.06	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	突発性発しん	○	14 0.78	10 0.56	13 0.72	6 0.33	50 0.37
	ヘルパンギーナ	→	6 0.33	6 0.33	3 0.17	9 0.50	10 0.07
	流行性耳下腺炎		2 0.11	1 0.06	0 0.00	2 0.11	6 0.04
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）		1 0.04	0 0.00	0 0.00	1 0.04	1 0.00
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	2 0.40	2 0.40	0 0.00	10 0.29
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2　全数報告対象疾患（51件）　※新型コロナウイルス感染症48件は数のみ

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	70歳代	病原体の分離・同定	腸管出血性大腸菌感染症	男性	10歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認
結核	男性	80歳代	病原体等の検出等				
新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代～80歳代	病原体遺伝子の検出等	－	－	－	－

・第44週は、　結核2件（134）、腸管出血性大腸菌感染症1件（20）、新型コロナウイルス感染症48件（833）の発生届があった。

※　（）内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数　第44週のコメント

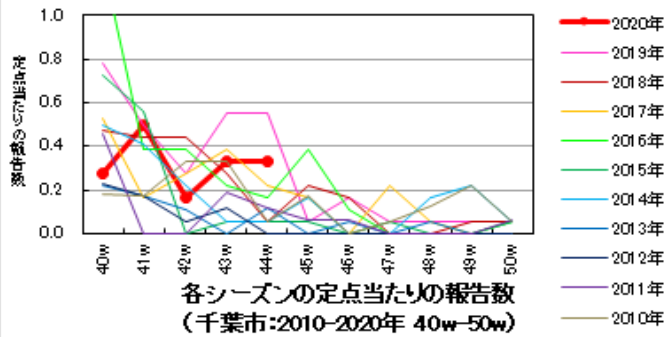
＜突発性発しん＞前週より増加し0.78となった。過去10年の同時期と比べると多め。
＜ヘルパンギーナ＞前週から横ばいで0.33となった。過去10年の同時期と比べると、この時期として非常に多い。

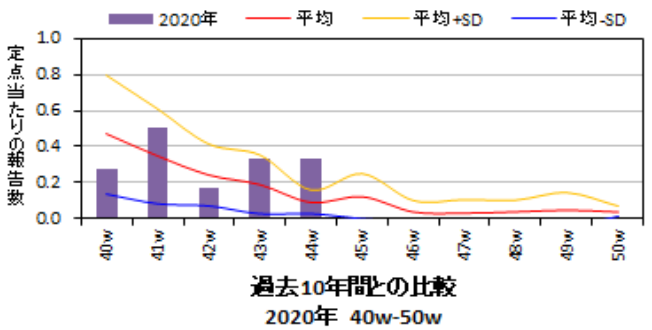
■ トピック ■

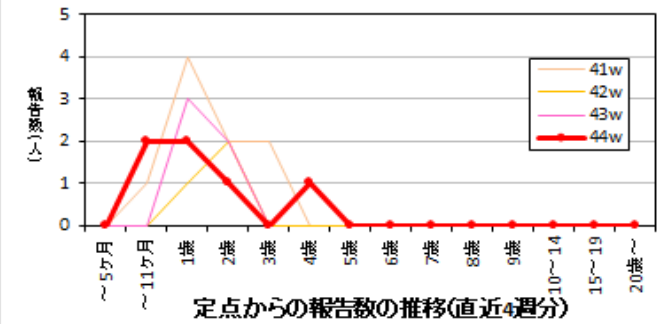
＜ヘルパンギーナ＞

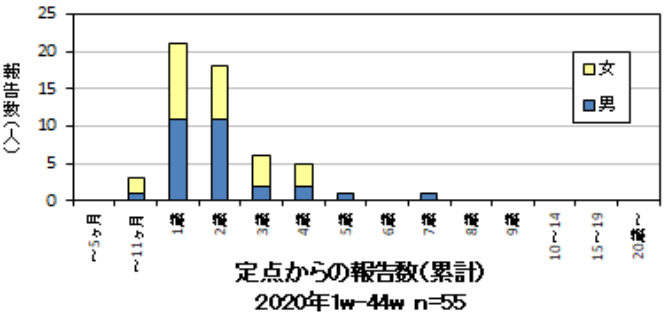
全国レベルの第43週の定点当たりの報告数は0.23となり、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では山形県、高知県、島根県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.07で、全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の第44週は前週から横ばいで0.33となっていますが、過去10年の同時期と比べるとこの時期としては非常に多くなっています。区別の発生状況は、若葉区（2.5/定点）で最多で、同区の1歳で最も多く報告がありました。2020年第1週から第44週までの累積報告数は55件で、男性52.7%（29件）、女性47.3%（26件）となっており、年齢階級別では1歳（38.2%：21件）、2歳（32.7%：18件）、3歳（10.9%：6名）の順で多くなっています。

ヘルパンギーナは、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎です。患者の年齢は5歳以下が全体の90%以上を占め、1歳代がもっとも多く報告されています。感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染です。予防方法は咳エチケットや出来るだけ感染者との密接な接触を避けるほか、通常の手洗いに加え、特に患児のおしめを替えた後などは良く手を洗うことです。

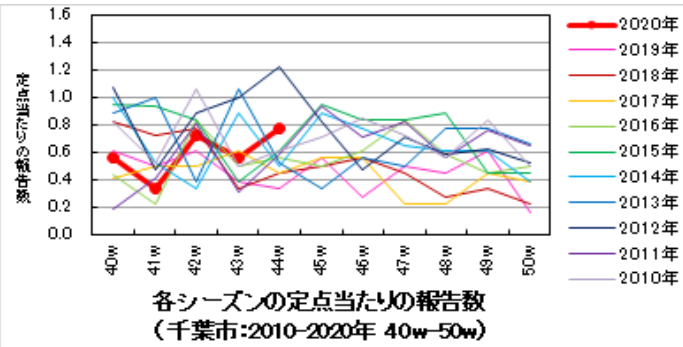
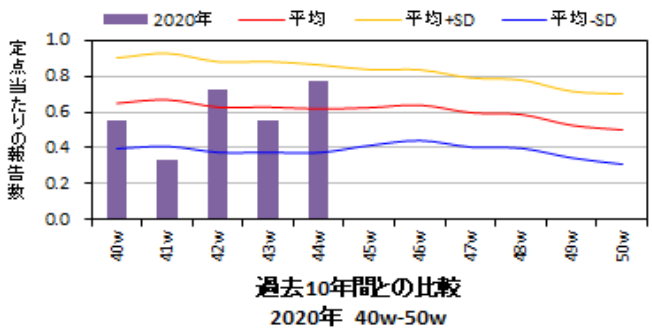
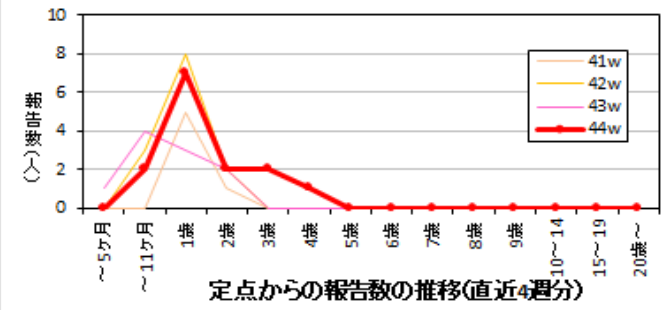
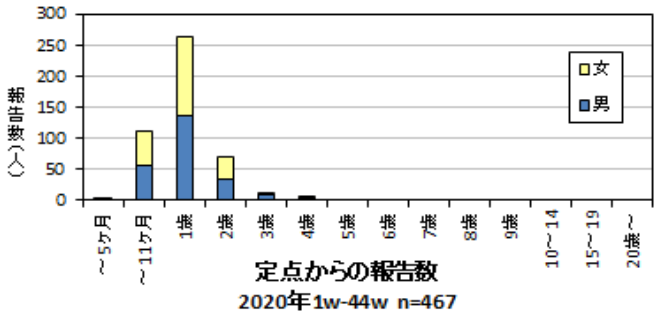








＜突発性発しん＞

全国レベルの第43週の定点当たりの報告数は0.43で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では福岡県、佐賀県及び熊本県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.37で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第44週は前週より増加し0.78となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、緑区（2.0/定点）で最多で、同区の1歳で最も多く報告がありました。2020年第1週から第44週までの累積報告数は467件で、男性52.0%（243件）、女性48.0%（224件）となっており、年齢階級別では1歳（56.7%：265件）、6-11か月（23.8%：111件）、2歳（15.2%：71名）の順で多くなっています。

突発性発しんはヒトヘルペスウイルスによる感染症で、生後4か月ごろから1歳ごろまでの乳幼児に発生する代表的な疾患です。予後は一般に良好で、初感染以降は潜伏感染状態となり、ウイルスは断続的に唾液中から排泄されます。38度以上の発熱が3日間ほど続いた後、解熱とともに鮮紅色の斑丘疹が体幹を中心に顔面、四肢に 数日間出現します。通常予後良好な疾患であることから、特別な予防法や予防接種はありません。